



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2012 **2**



1月12日(休) 兵庫県農業会館にて開催された「2012国際協同組合年 宣言イベント・キックオフ大会」で挨拶する兵庫県協同組合連絡協議会 本田英一会長。生協をはじめ県下の各協同組合の仲間、350人がつどいました。(関連ページP.4)

「これまで」の上に

「これから」がある

東日本大震災が発生してからまもなく1年がくる。地震が発生したとき、私はちょうど会議中であつた。

大きなゆれを感じ会議を中座してテレビをつけた。東北地方の大きな揺れを報じていたため、近畿地方のどこかの震源地が暫く待った。まさか東北のゆれが神戸でも大きなゆれを感じさせたとは思えなかつたからだ。忘れられない光景がある。津波で町が流されている映像である。沿岸部のある町を訪れた際にもよみがえってきた。

今回の東日本大震災では、生協、漁協、森林組合、農協も直接の被害者になった。それぞれの協同組合のネットワークを通じて、その組織力を背景にボランティア、救援物資、義援金など、ヒト、モノ、カネの総合的な支援が全国的に展開された。被災地が復興するまでには、長い道のりになるだろう。しかし、それでも一歩ずつ進むために、私たちが今

できることは何でもしなければならぬと思つている。

1. 兵庫の農業の現状

さて、まず兵庫の農業について、知ってもらいたい。

日本のカロリーベースでの自給率は、最新値（平成22年度）で39%である。県内の自給率は16%にすぎない。また、兵庫県内の平成20年の耕地面積は77,020haで、県土の約9・2%である。農家戸数は、高齢化などから減少を続けており、2010年農林業センサスによると95,499戸である。農業就業人口は73,366人で、その平均年齢は67・8歳である。農業生産額は、平成19年度には約1400億円となつているが、高齢化などによる生産量の低下と安価な輸入農産物に影響を受けた国産農産物の低価格化により減少傾向にある。

2010年農業センサスは、大きい

CONTENTS

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 2. 想点 4. 新春トップセミナー・賀詞交換会 開催報告
[2012国際協同組合同年 宣言イベント・キックオフ大会] 報告 5. 単協通信
生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合〔神戸事務所〕/
兵庫労働共済生活協同組合 6. 協同組合のかけ橋 | <ul style="list-style-type: none"> 7. 兵庫県のページ 8. ひょうご消費者セミナー2011のご案内/
フェニックス共済のお知らせ/県連日誌/編集後記 |
|--|---|



兵庫県農業協同組合中央会
(JA兵庫中央会) 専務理事

浜田 充
(はまだ・みつる)

く変化する兵庫の農業を描き出した。①農家戸数の減少と土地持ち非農家の増加、②農業就業人口の減少、③経営耕地面積の微減である。

2005年から2010年の間の農家戸数の減少率は9.1%と高まり、他方で土地持ち非農家の増加率は13.4%と高まった。また、農業就業人口の減少率は21.9%と大きく減少した。しかし、農業経営体の経営耕地面積の減少率は1.8%にとどまっている。整理すると農家戸数の減少と農業就業人口の減少に対して、土地持ち非農家の増加と経営耕地面積の維持が見られ、農業センサスの概観のみをたどれば、構造政策が進みつつある可能性が示唆された。これらは、2005年以降に急増した集落営農との関係性が見てとれる。

さらに、農業や農村が持つ、洪水防止機能や水資源涵養機能などだけでも全国では8兆円を超える評価額が試算されている。生物多様性保全機能などは貨幣価値に換算できないとされているので実際の価値は試算額を上回る額となる。

2. JAグループの取り組み

農協法第1条では、JAの目標を

「農業生産力の増進」とともに、「農業者の経済的社会的地位の向上」を図ることを掲げている。組合員の営農と生活に対する指導（支援）はJA本来の使命である。また、JA綱領でも「環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう」と掲げている。JAの取り組みは協同組合の理念に基づく。

だからこそ、JAの事業・活動も、地域農業の発展と組合員の生活向上を起点にしている。われわれJAは発足の当時から組合員のニーズに合わせるため、組合員の営農生活にわたる総合事業を行ってきた。そして、JAはこの多角的事業推進を通じて、農業の発展や地域の発展に取り組んできた。

それだけに経済事業から信用・共済、医療・福祉、教育・文化活動まで、そのフィールドは広い。各種事業を有機的に結びつけることが、豊かなくらしの実現に欠かせないからだ。この総合力がJAの強みであり、その力を発揮することで地域振興にも大きく貢献したいと考えている。

3. 国際協同組合年 (IYC : International Year of Cooperative)

2012年は国際協同組合年である。協同組合に対する評価は、国際的に高まっている。国連が2012年を「国際協同組合年」と位置づけたのも、飢餓・貧困の撲滅に貢献できる可能性を協同組合の活動に見出したからだ。それぞれの協同組合が現実の経済社会の問題の解決に貢献できる可能性があり、その取り組みを通じて協同組合の発展が期待されているが、JAは地域において生じている農業と暮らしの切実な問題に取り組むことでさらに発展できると思っている。

私は、国連が協同組合を高く評価し、「2012年を国際協同組合年 (IYC)」としたことを「誇り」に思う。「2012年が国際協同組合年である」こと自体をPRすることがIYCの本当の意義ではない。大切なことはこれを契機に、協同組合を多くの方に知ってもらうためあらゆる情報発信すること、自らの協同組合としての役割を自覚し直すこととの2つに「誇り」を持って取り組みなければならぬ。「これまで」の上に「これから」があるのだから。

新春トップセミナー・賀詞交換会を開催

1月7日(土)、兵庫県民会館において今回で7回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催。当日は、兵庫県から金澤和夫副知事をはじめ6名の方々をお迎えしました。また、会員生協の理事長を含む理事・監事、共栄火災海上保険株式会社神戸支店長をはじめ、59名の参加をいただき、新年の決意を新たにする機会となりました。



ご挨拶をされる清原桂子兵庫県理事

新春トップセミナーでは、兵庫県生協連 本田英一会長理事の開会挨拶に続いて、兵庫県理事・兵庫県安全安心な消費生活推進本部 事務局長・清原桂子様よりご挨拶をいただきました。その後、関西学院大学災害復興制度研究所所長、関西学院大学総合政策学部教授・室崎益輝氏を講師に迎え「次の巨大地震に備える・・・東日本大震災の教訓」と題して、「防災、減災についてやるべきことをやっておくことが安全・安心につながる」「行政、コミュニティ、企業、NPO・ボランティアなどが相互に連携し、協同する」などについての講演をいただきました。会場では、メモを取りながら熱心に聞き入る参加者の姿が見られました。

その後、開催された賀詞交換会には、兵庫県の消費者行政のご担当の方々にもご参加いただき、本田英一会長理事の挨拶に続き、ご来賓を代表して兵庫県副知事 金澤和夫様からご挨拶をいただきました。そして、兵庫県生協連 大西憲慈専務理事の乾杯の発声で賑やかに会がスタート。日頃



ご講演をされる室崎益輝教授



賀詞交換会にてご挨拶をされる金澤和夫兵庫県副知事

からお世話になっている行政の皆様と会員生協の皆様が活発な交流を行い、年頭を飾るにふさわしい賀詞交換会となりました。

協同組合の役割や存在意義を学ぶ

「2012国際協同組合年 宣言イベント・キックオフ大会」を開催



各団体役員、組合員をはじめ350人がつどいました

2012年は、国連が定めた「国際協同組合年」。1月12日(木)、兵庫県農業会館で、「2012国際協同組合年 宣言イベント・キックオフ大会」が開催され、各団体役員、組合員、350人がつどいました。国際協同組合年のスタートにあたり、県下の農協、漁協、森林組合、生協など協同組合相互の連絡・連携、共通課題に取り組む「兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)」が、協同組合の役割や存在意義を改めて学ぶ場として開催。冒頭、兵庫県協同組合連絡協議会・本田英一会長(兵庫県生活協同組合連合会会長理事)の挨拶に続き、兵庫県

知事・井戸敏三様、神戸市市民参画推進局局长・大谷幸正様、賀川記念館館長・賀川督明様よりご挨拶をいただきました。「2012国際協同組合年に向けて」のDVDを視聴後、神戸大学・野尻武敏 名誉教授を講師に迎え「明日を拓く協同組合～国際協同組合年を迎えて」と題し、ご講演をいただきました。「世界で10億人が協同組合に加入している。経済危機など歴史的な大転換の時代を迎え、協同組合の活動が期待されている。みんなが手を結び、力を合わせて取り組むことが協同組合の大きな使命です」と話され、参加者は協同組合の原点に返ることの大切さを再確認しました。



ご挨拶をされる井戸敏三 兵庫県知事



ご講演をされる野尻武敏 名誉教授

生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合

『組合員参加メニューコンテスト』の実施

2011年度新学期を迎える前に、「組合員に食堂利用の楽しさを伝える。」「組合員が食堂のメニューにかかわることで店舗との交流を深め、生協との関係づくりに繋げる。」「関係づくりが出来ることで店舗の活性化に繋げる。」ことを目的に組合員参加によるメニューコンテストを実施しました。

特に組合員に人気のある『丼メニュー』に限定し、組合員によるメニュー提案とレシピをもとに店舗で試作を行い商品化しました。また、各会員で試食会を実施し、採点の上、ナンバーワンメニューを決定し



ました。さらに各会員で選ばれたナンバーワンメニューを事業連合で集約を行い、神戸地区会員は大阪地区大学で、大阪地区会員は神戸地区大学で試食会を行い、各地区上位5メニューを選考し、10月から1週間ごとに全会員店舗食堂にて出食を行いました。その中で最も出食率（客数対比）の高かったメニューを最優秀グランプリとして表彰します。

今回の組合員参加メニューコンテストでは各会員店長と組合員学生との交流が出来、応募も多く、3月から12月までの長い期間、告知ポスターや結果告知で相乗効果があり多くの組合員に食堂に足を運んでいただきました。今までの

企画やフェアでは、最初に出食率が上がり、だんだんと下がる傾向でしたが今回は尻上がりに出食も増え、阪神全体で取り組めたと感じます。今後組合員と一緒にいろいろな企画を組みたいと思います。(通信員 田村良彦)

兵庫労働共済生活協同組合

『ひょうご安全の日のごとく』にて、『住まいと暮らしの防災・保障点検運動』をPRしました

兵庫労済(全労済兵庫県本部)は、1月17日(火)に開催された「ひょうご安全の日のごとく」(主催/ひょうご安全の日推進県民会議)の会場(HAT神戸・なぎさ公園(神戸市中央区))にて、「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」のPRを行いました。

「ひょうご安全の日」とは、兵庫県の「ひょうご安全の日を定める条例」にもとづき、1月17日を、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として定めたものです。

兵庫労済(全労済兵庫県本部)では、現在、一人一人の住まいと暮らしをまもるため、「備える」「守る」「再建する」という「3つの視点」をもとに、パーソナルに診断し、今なすべきことを明らかにすることで、災害に對する確かな対応を支援するという「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を展開しています。

その一環として、全労済HP内に「WEBによる無料診断ページ」(防災・減災に関する知識、住宅災害への備えを診断)を開設し、WEB上の設



問への回答者に診断結果をお知らせするとともに、ご希望者には、より詳しい「診断結果レポート」と「防災ハンドブック」「耐震パッド」を無料進呈しています。

当日は、「ひょうご安全の日のごとく」のほか「ひょうごメモリアルウォーク」、「交流ひろば・ステージ」、「防災訓練」が開催され、約5,300名の来場者に、職員10名が、声かけ・チラシ配布を行うじて、「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」と「WEBによる無料診断」をPRしました。

また、「ひょうご安全の日推進県民会議」の構成団体である「連合兵庫」のご協力のもと、「連合兵庫」の出演ブースにおいて、阪神・淡路大震災および東日本大震災の活動報告パネルを展示し、地震・風水害等の自然災害や火災などの住宅災害への備えの重要性・必要性を訴えました。

…私からはじめる…

防災Q保障点検運動

特設HP 開設中

全労済 住まいと暮らし 検索

兵庫労済(全労済兵庫県本部)では、今後様々な場面・かたちで「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を展開していきます。

(通信員 鶴田和彦)

協同組合のかけ橋

JF 兵庫県漁業協同組合連合会

“兵庫のり”について学ぼう！
～明石市立林小学校の児童が見学～



真剣に聞いていた子どもたち

12月13日(火)、JF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）において、社会科の授業の一環として、明石市立林小学校 3年生の児童と先生ら約80名が乾のり検査の現場の見学と、ノリが出来るまでの過程を学びました。

見学場所となった同センターの乾のり検査場では、今年度の最初の検査が行われており、そこへ元気な声の挨拶で入ってきた児童たち。初めて見る光景に少々戸惑った様子でしたが、担当した伊藤主任と原部員の説明を聞いているうちに雰囲気にも慣れ、最後には元気よく質問をしていました。また、ノリが出来るまでの過程も学んでもらおうと別室に“兵庫のり”のDVDを用意。担当した藤原主任から“兵庫のり”の特徴やノリの色についてなど説明がありました。DVDの映像には同小学校の給食の様子が写っており、歓声があがりました。さらに、その後のノリの試食でも大喜び。参加した児童たちは、ノリについての理解が深まったようです。



乾のり検査風景をみんなで見学中



「ノリの色落ち」についても学びました！

JA 兵庫県農業協同組合中央会

米粉たっぷりの
「こめこぼうむくーへん」を
発売

JA兵庫六甲は12月23日(金)、米粉とこだわり卵でつくったバウムクーヘン「こめこぼうむくーへん」の販売を開始しました。バウムクーヘン専門製造業者と提携し、生地原材料にJA兵庫六甲地域内の米粉を100%使用しています。卵は国産飼料の使用率が50%（内飼料米17.5%）と高く評価されている県内産こだわり卵を使い、管内15ヵ所の農協市場館で1箱750円で販売しています。

JA兵庫六甲では、昨年7月に「米粉入りねぎ餃子」、8月に「米粉めん」を商品開発し、米粉の普及運動を積極的に展開しています。今回の「こめこぼうむくーへん」は米粉製品の第3弾として、これまでの米粉製品に加え、地域の消費者へPRするとともに、今後も新たな米粉商品を企画していきます。担当者は、「手ごろな価格に設定しています。お土産にぜひ購入してほしい」と話しています。



しっとりとした食感が楽しめる
「こめこぼうむくーへん」はいかが？



最近の消費生活相談事例

家電製品のコードが発熱！

家電製品の電源コードについて、「使用中に電源コードが熱くなった。」「製品本体と電源コードの接続部分から火花が出た。」等の相談が県内の消費生活センターに寄せられています。火災等につながる恐れもあるので注意が必要です。

事例

1年間使用した後、箱に入れて保管していたスチームアイロンを久々に使ったところ、アイロン本体の電源コードの根元部分が熱くなった。

原因

ソフトX線装置などで確認したところ、コード内部素線の一部断線が確認されました。

本体に電源コードを巻き付けて保管するタイプのアイロンだったため、コードブッシュ（アイロン本体とコードの接続部）の先端で電源コードが折れ曲がったままの状態でも保管される上、使用時にもコードを引っ張ったり、曲げたりする力が繰り返しかかることで、電源コード内部の素線が一部切れ、半断線状態となり、コードが発熱したものと考えられます。

（注）電源コードは数十本の銅の素線を束ねて1本のコードになっています。



【電源コードを取り扱う際の注意点】

- コードの素線が断線しないように ①家電製品本体に巻き付ける ②無理に曲げる、ねじる ③コードを束ねる ④ドアや家具等に挟込む 等しない。特に、家電製品本体とコードの接続部やコンセントプラグ付近など力が集中しやすい部分の取扱いには注意しましょう。
- 家電製品本体と電源コードの接続部やコンセントプラグ付近が、局所的に熱くなっている場合は、コード内部の素線が断線又は断線しかけている可能性が非常に高いことから、使用をすぐに中止し、製造業者等に問い合わせましょう。

（兵庫県生活科学総合センター 078-303-0999）

MOVE

ひょうご消費者セミナー2011

携帯・ゲーム機・インターネットに潜む危険 ～大切な子どもが傷つかないために～

第1部では、情報機器との上手な付き合い方や、親や地域の人から子どもの様子を見守ることで、ネットの被害者にも加害者にもならない社会をつくることを、具体的な実例をあげながら講演。第2部では、消費者被害の拡大を防ぐ「消費者団体訴訟制度」や、検討がすすめられている新しい消費者被害救済制度について、寸劇を交えて分かりやすくご紹介いたします。

◆と き：2012年3月14日(水) 午前10時～12時30分

◆ところ：兵庫県農業共済会館 (JR元町駅より徒歩10分)

◆内 容 (第1部) 講 演：「携帯・ゲーム機・インターネットに潜む危険～大切な子どもが傷つかないために～」
講 師：篠原 嘉一さん (兵庫県情報セキュリティサポーター)

(第2部) テーマ：「新たな消費者被害救済制度について～消費者団体訴訟制度とともに～」

寸 劇：大阪大学学生劇団「ちゃうかちゃうん」

◆参加費：無料 (定員160人。お早めにお申し込みください)

◆締 切：3月2日(金) ※定員になり次第締め切ります

◆申し込み方法：兵庫県生協連合会までお電話でお申し込みください (電話：078-391-8634)

◆主 催：コープこうべ、消費者支援機構関西、ひょうご消費者ネット、兵庫県生協連

◆後 援：兵庫県・神戸市

携帯電話・ゲーム機・インターネットと、子どもたちが接する情報機器は多様ですが、機器の適切な使い方を知らないために、さまざまなトラブルや犯罪に巻き込まれる危険が潜んでいます。



※「兵庫県情報セキュリティサポーター」とは…「ひょうご情報セキュリティ推進会議」(兵庫県と諸団体で構成)で情報セキュリティ対策を推進するサポーター制度のこと。

自然災害から「住まい」「家財」を守る フェニックス共済 ～兵庫県住宅再建共済制度～

フェニックス共済は、災害発生時に被災した住宅の再建のために住宅所有者が相互に支え合う「住宅再建共済制度」と、早期の生活再建を目指して県民がお互いに助け合う「家財再建共済制度」とにより、自然災害への「備え」を充実させています。

平成23年9月の台風12号災害に伴い、床上浸水又は半壊以上の被害があったことから、家財再建共済制度創設後、初めて家財再建共済給付金の給付を行いました。

小さな掛金(共済負担金)で、確かな住まいの安心を手に入れませんか。



気軽に入れる共済負担金

住宅再建共済制度 年額 **5,000円** (月々約417円)
家財再建共済制度 年額 **1,500円** (月々 125円)
両方に加入 年額 **6,000円** (月々 500円)

共済負担金

住宅再建共済制度 最高 **600万円**
(市町が発行するり災証明書で半壊以上の被害認定の場合)
家財再建共済制度 最高 **50万円**
(市町が発行するり災証明書で床上浸水又は半壊以上の被害認定の場合)

共助に感謝キャンペーン実施中!!

県立施設等の各種割引や県特産品の抽選機会が得られます。詳しくは下記までお問い合わせください。

お問い合わせ

(公財)兵庫県住宅再建共済基金 神戸市中央区下山手通5-10-1 (兵庫県庁内)
TEL 078-362-9400 (平日9:00～17:00) FAX 078-362-9405

フェニックス共済

検索

県連日誌

- 2月6日(月) 兵協連第4回理事会・貸付審査会 (県民会館 1201)
- 2月16日(木)～17日(金) 第10回 税務・経理講習会 (県民会館 1101・1102)
- 2月24日(金) 兵協連第3回共済生協習会 (県民会館 ばら)

編集後記

街はチョココレートの甘い香りが漂うばかりの季節……。中学生の頃、毎年2月14日には(帰りはいつも数個の袋に、ウケを狙って?)やたら大きな紙袋を持って登校するユニークな男子生徒がいました。今や「チョコで女子会」や「チョコの試食会」も開かれる時代。「友チョコ(友人同士でチョコ交換)」や「自分チョコ(自分へのご褒美チョコ)」も、すっかり定着したようです。踊らされ感はないつつも、この時期にしか味わえない美味しそうなチョコを選び、お世話になっている方にお渡しするときの、多少のワクワク・ドキドキ感もあり、ひとつの季節の行事として楽しめます。シヨクラティエが作る、思わず2度見してしまうような1粒¥1000のチョコは横目で見ながら、昨年買った小さなチョコフォンデュ鍋を楽しみます。春はもうすぐ……。春を待ちかねて、より活動的な!みなさまからのお便りを、たくさんお待ちしております。(中尾)

